

## 中央銀行の役割と資源高対応

緩和策というのはインフレーションを目指すことであって、引き締め策とはデフレーションを目指すことであって、それによって物価の安定をはかって、ビジネスマンが安心して取引ができるようにするのを保証するのが中央銀行の仕事である。特定の誰かを得させるために政策を打っているわけではないのである。「買い」は緩和策で、「売り」は引き締め策で、売り買い交錯して、買いが優勢ならば価格は上がるし、売りが優勢ならば価格は下がるし、そして一つの財やサービスの価格が決まるのである。人間の欲望を社会の発展の方向に結びつけることに成功しているから資本主義というのはうまくいっているのである。

最近、ロシアのウクライナ侵攻によるロシア産の資源高を新聞記事でよく見かけるが、OPECに外交努力で増産してもらうわけにはいかないのであろうか。

例えば、環境省の外局に清掃庁を作って清掃局の地方公務員を国家公務員にして炭素税を導入してゴミの問題とオゾン層の破壊による地球温暖化の問題を解決して脱化石燃料をはからなければならない。ガソリンスタンドに電気スタンドを併設して電気自動車の普及をはかるのも一つの策だろう。

2022年5月17日(火)

英文法令社  
佐藤 賢一